め入り，戦場となって，いたるところに負傷兵や戦死者がでました。岩子は，もってうまれた正義感で，戦場をかけめぐって，敵味方の区別なく，多くの人々の助けをかりて，負傷兵の看護をしました。戊辰戦争で会津藩は降伏しましたが，岩子は敗戦後の貧しい人に食事を与えたり，家を失った人にとまる所を与えたりして，困っている人たちのために限りなく働きました。

1872年（明治５年）に，役所は会津地方のすべてに小学校をたてましたが，岩子はそれよりも３年も前に，喜多方に小田付幼学校をつくり，読み書き習字，珠算などを教えました。また，岩月村の長福寺に，身寄りのないこどもやお年寄りを世話したり教えたりする養育所，福島の長楽寺にも同じような養育所をつくりました。

1888年（明治21年）磐梯山が大爆発しました。いくつもの村が土砂でうめつくされ，多数の死者や負傷者がでました。岩子は災難にあった人たちのために，ほうぼうからお金や物資を集め，衣食をわけたり，食事を作ってやったりしました。何十日も働いて，口もきけないほどでした。それでもがんばりました。

岩子は，貧しい人たちのために，無料でなおしてもらえる「済生病院」をつくりました。医師は日本赤十字社病院から派遣してもらい，治療にあたりました。この病院では医学の勉強をしていた野口英世が薬局の仕事を，母のシカも仕事の手伝いをしていました。

岩子は，このほかにもたくさんの人のためになる仕事をしました。1897年（明治30年）４月19日に岩子は心臓の病気のために，69才でこの世を去りました。亡くなるまで，岩子は人のため，世のためにがんばりとおした人でした。自分がやらなければと思ったことは，どんなことがあっても強い信念をもってやりとおしました。

岩子のおこないをたたえて，東京浅草の浅草寺，福島市の長楽寺，